

JHF REPORT



安全で豊かなフライトの一年を

公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟 会長 竹村 治雄



新しい年を迎え、一
言ご挨拶申し上げます。

2025年は、国内外で
明るい話題が多くあり
ました。ハンググライ
ディングクラス5世界選手権で板垣直
樹選手が優勝し、パラグライディング
世界選手権では平木啓子選手が女子3
位の成績を収めるなど、世界の舞台で
日本の存在感を示すことができま
した。国内でも、パラグライディング日
本選手権が2年ぶりに成立し、アキュ
ラシー日本選手権も初めて12タスクす
べてがフライトでき成立いたしました。
多くのカテゴリーで大会が成立し、

競技としての広がりと活気が戻ってき
ました。

一方で、ハング・パラ双方の世界選
手権で死亡事故が発生し、XC競技に
おける安全確保についてCIVLで議論
が進んでいます。JHFとしても、これ
ら国際的議論の動向を注視し、さらなる
安全確保に向けて積極的に取り組ん
でまいる所存です。安全性の向上は
トップパイロットのみならず、すべて
のフライヤーに共通する最重要課題で
あり、JHFの大きな使命です。

今年は、安全教育のさらなる充実に
力を入れてまいります。そのためにも、
JHFがハンググライダーとパラグ

ライダーを統括する国内唯一の団体と
して、フライヤーが安心して活動でき
る環境を守り続けていくという決意を
改めて強めております。私たちが現在
のように自由度の高い形で空を楽しめ
ているのは、約50年前に始まった自主
規制・自主管理の枠組みが、日本航空
協会と関係省庁との協議の中で形づく
られ、全国の先輩フライヤーが地域との
信頼を積み重ねてきた努力の賜物で
す。

講習生からベテランまで、どの段階
の方にも役立つ教材や指導方法を見直
し、JHF教員を通じてクラブやスクー
ルと連携しながら、実践的で分かりや
すい安全指導を推進してまい
ります。安全は知識と経験の
両方から育まれるものであ
り、繰り返し学ぶことで確実
に習慣として身に付いていき
ます。

空を自由に飛べるこの素
晴らしいスポーツを、より多く
の方に知っていただき、体
験していただくためにも、安
全を軸とした取り組みを大
切に進めていきたいと考えて
おります。

本年が、皆さま一人ひとり
にとって安全で豊かなフラ
イトの一年となりますことを心
より願っております。そして
JHFはこれからも、自由な空
を守り、安心して飛べる環
境づくりに取り組んでまいりま
す。



「2025パラグライディング日本選手権 in 吉野川」より 撮影：中村浩希選手（12ページに報告を掲載）

スポーツくじ



JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

JHFフライヤー宣言

1. 自分の意志と責任でフライトします。
2. 自己の健康管理を行い、健全なフライトをします。
3. 社会のルールを守り、第三者に迷惑をかけません。
4. 自然を大切にします。



ティクオフはやり直せます。 確信を持って安全安心なフライトを。

JHF安全性委員会 委員 金井 誠

事故報告を分析していくと、ティクオフを取り止められていれば防げたと思われる事故が多数あります。ベテランと言われるような方も多分意識をしていないのではないかと思われる基本さえ押さえておけば必ず防げたはずの事故です。

ラインが絡んでいたとか、立ち上がりが悪くて走る場所が無くなったりとか、ブレーキトグルの持ち方が間違っていたとか、風が急に変わって揚力を感じないとか、何かの不具合に気付いたら「取り止め」ればいいんです。これはティクオフ失敗とか事故ではありません。逆に不具合に気が付かないとか取り止められなければ重大事故に直結します。

安全安心なティクオフのために少しだけ時間を作って練習してみてください。意識して練習すれば誰でも必ずできます。

【意識改革 1】

立ち上げたら飛び立たなくてはならない、は間違い。機体の頭上安定と確認こそがティクオフ失敗を未然に防ぐ。

立ち上げ動作を始めたらそのまま下を向いて猛ダッシュ！と思っている方は意識を変えましょう。頭上安定と機体の確認ができるのに一か八かの賭けに出て飛び出しちゃったら、いつか事故を起こすと。

離陸する／しないの判断はライズ

アップの後、全体を確認してから最終決定します。そのためにまずは、機体の頭上安定と目視確認！



無風でも必ず頭上安定させてから目視確認！

頭上安定と目視確認の練習

まずはライズアップしてから頭上安定させてキャノピーを目視する練習をしましょう。

風が少し強めの時は、ライズアップ後ライザーにかかるテンションを抜重し、ブレーキ操作を行い、しっかり機体を止める意識をして貰えば大丈夫。

無風とか微風の時は、キャノピーに空気が入り込んだ後は少し力強く上げた方が、揚力が大きく発生しますのでしっかり止めても頭上に長く安定していってくれます。グッと前傾しながらカラビナを15cmくらい下げる意識で、短い距離でも立ち上がるようやってみてください。立ち上がったら少しだけ伸びあがるようにカラビナを10cmくらい上げるような意識で抜重して、ブレーキ操作でキャノピーを止めます。

最近のパラグライダーはとてもライ

ズアップ特性が良いです。無風でも立ち上がるし、頭上で待っていてくれます。まだ昔の機体の感覚で突撃してゆくように一か八かで走り出している方は、騙されたと思ってやってみてください。

【意識改革 2】

ライズアップした後にちゃんと離陸を取り止められる人が上手い人

「行きます」と言ったからには傾いていても潰れていてもすぐに飛び立たなくてはカッコ悪いとか、取り止めたら皆に迷惑がかかると思っている方は意識を変えましょう。どんなに念入りに頭上確認しても3秒もかかりません（逆に、微風で3秒止められたらカッコいいですよ！）。そこで不具合を見つけて取り止めても1分もかからずに次の人に順番を譲れます。

それなのにやみくもに突っ込んだ挙句に木に引っ掛けたり怪我をしたら



不具合があったら取り止めればOK！

2025年の事故報告 9月8日～11月20日

事故日	機種	内容	EN	年齢	経験	性別	技能証	怪我/状態
39	9月8日 PG	メインLDに届かずサブLDアプローチ中に木に接触して落下	B	75	8	男	NP	肋骨10本骨折
40	9月11日 HG	直線飛行講習中に翼が壊られて転倒		19	0	男	練習生	上腕骨折
41	9月28日 PGTD	ブレーキラインが片方のライザー側に絡みリバースでTO。左旋回後墜落		65	18	男	上TD	胸骨損傷
		パッセンジャー：背骨圧迫骨折、脊髄損傷						背骨圧迫骨折
42	10月1日 PG	リッジソアリング中にツリーラン	A	27	1	男	A	無傷
43	10月24日 PG	地上でグラハム練習中にダストデビルに巻き込まれて引きずられる		43	0	男	A	腰椎・足骨折
44	11月20日 PG	ティクオフ直後に墜落。調査中		75		男		

カッコ悪いどころか皆の大迷惑です。ライズアップをした後に何かあれば、ちゃんと取り止めができる人が上手い人（＝安全な人）なのです。

テイクオフの取り止めの練習

最近のパラグライダーは失速特性が良いのでフルブレーキしてもなかなかストールして後ろに落ちてはくれませんが、風が弱くて斜度が小さい時はフルブレーキして足を緩めれば取り止められると思います。

風がしっかりと入っていたり斜度もある時はフルブレーキ操作をすると浮かされてしまうので要注意。斜度が大きい時は斜面の横に動きながら（抜重しながら）ブレーキコードを片側だけしっかり引いてキャノピーを横に倒して止めます。

テイクオフ場が空いている時やグラントハンドリングの練習の時に、真っすぐに立ち上がったところからキャノピーを落とす練習をしておきましょう。

【意識改革③】

テイクオフ場には、立ち上げゾーンと加速走ゾーンの境目にストップラインがある（安全に取り止められるストップラインを自分で決める）。

不具合を発見したとか、テイクオフディレクターからストップがかかった時に安全に取り止められる、うまく立ち上がらない時に安全に取り止められる範囲が、立ち上げゾーン。その中でライズアップが完了しているのを確認すれば離陸のための加速に入るわけですが、立ち上げゾーンがどこまでなのかを示すのがストップライン。



ストップラインを意識しよう！

ストップラインはマーカーとかラインで明示していないエリアも多いですし、地形や風によっても安全に取り止められる範囲は変わりますが、自分でここまでライズアップと確認を完了する、できなければ取り止めるというストップラインをフライト前に決めておくと良いでしょう。

ストップラインを決める練習

グラントハンドリング練習の時にマーカー等を置いて自分でスタートラインとストップラインを設定する。その想定が正しいのか実際にライズアップして機体を頭上で安定させてからキャノピーを落としてみる。

テイクオフ場が空いている時に、ライズアップしてからストップがかかった事を想定して取り止める練習をする。

風速や斜度で大きく変わることが実感できると思います。自分の機体の立ち上げ特性を理解しておくと、何処へ飛びに行っても安心してテイクオフ（取り止めも）できます。

セーフティノーツ

■ICARO社 タンデムスプレッダーバー

■OZONE社 Lite、Lite PPG、コクピットレスキューコンテナ

■OZONE社 F*Race 2 ABSシステムのセットアップABSラインとチェストストラップの接続

JHFウェブサイトの安全性委員会ページにDHV（ドイツのハンギングライディング・パラグライディングを統括する連盟）やメーカー等が発表する、ハンギングライダー、パラグライダー、それらの装備品に関する安全情報「セーフティノーツ」があります。以下は2025年の情報です。詳しくはJHFウェブサイト>安全性委員会のページをご覧ください。

■ICARO社 タンデムスプレッダーバーの問題 6/28

スプレッダーバーのカーボンパイプエンド部に付属する金属部品の鋭利なエッジによりベルトが摩耗し、最悪の場合、切断する恐れがあります。2024年6月以降のロット品。スプレッダーは、次回の飛行前に損傷

がないか点検する必要があります。

スプレッダーに目に見える損傷がない場合にはカーボンロッドの金具のエッジ部分を点検し、次回の飛行前にサンドペーパーでエッジのバリを取り除いてください。スプレッダーに目に見える損傷がある場合には、次回の飛行前にスプレッダーを交換する必要があります。

■OZONE社 Lite、Lite PPG、コクピットレスキューコンテナ 7/10

レスキューハンドルの縫製につ欠陥が見つかりました。2021年1月1日～2025年6月16日の間に製造された予備コンテナになります。

予防措置として、この期間中に製造されたすべてのコンテナハンドルは直ちに使用を中止してください。ハンドルは次回使用する前に交換し

てください。

■OZONE社 F*Race 2 ABSシステムのセットアップABSラインとチェストストラップの接続 9/1

F*Race 2には調整可能なABSシステムが付属しています。このシステムはダイニーマ製のラインで作られており、上部のループは常に正しい位置にある必要があります。チェストストラップが張られていない状態で、ダイニーマ製のABSラインが赤いループから外れ、ループの開口部が広がりトグルが抜けてしまう可能性が、ごくわずかではありますが存在します。このループの位置を確認し接続を修正してください。



【セーフティノーツ】

<https://jhf.hangpara.or.jp/jhsc/safetynote/note001.html>

あなたの力を貸してください

JHF常設委員会の次期委員を募集します

JHFには常設の委員会があり、各委員は、ハンググライディング・パラグライディングの普及と発展のために、安全に楽しくフライトできる環境を守るために活動しています。

現在活躍中の常設委員会委員が今年3月31日に任期満了を迎えるため、次の2年間（2026年度・2027年度）を任期とする委員を募集します。

安全に楽しく飛び続けたい、大切な空の仲間のために役立ちたいとお考えのあなた、委員会の一員としてJHFの活動に力を貸してくださいませんか。

以下、現委員長からのメッセージです。委員経験の方はもちろん、連盟活動は未経験という方も、ぜひ立候補をしてくださるようお願いします。

ハンググライディング競技委員会

当委員会はハンググライディングスポーツの発展に寄与することを目的とし、主に国内大会の公認・管理・支援、ならびに国際大会に出場する日本代表選手の選考を行っています。

また、毎年改定される国際ルールであるスポーティングコード（Section7）に合わせ、国内競技ルールの見直し・改定も担当しています。

ハングシリーズの参加者は、100人を下回った2008年以降およそ70名前後で推移しており、シリーズ大会の開催数もピーク時の年間7～8戦から、現在は4大会ほどに減少しています。

この状況を打破するため、競技者育成プログラム（通称「フレッジ」）を2022年に立ち上げ、大会やセミナーを企画・運営して競技レベルの底上げを取り組んでいます。

競技を通じて自身のフライトスキルを高めたい方、仲間を増やしたい方、そしてハンググライディング競技の発展に情熱をお持ちの方からの応募を心よりお待ちしています。

委員長 牟田園 明

パラグライディング競技委員会

当委員会は、パラグライディングスポーツの発展と進化に競技を通して貢献することを目的とする組織です。具

体的には、大会（クロカンを主体としたJ1リーグおよびJ2リーグ、着陸精度を競うアキュラシーリーグ）や、クロカンの記録を競うクロカンリーグの管理・公認を行っています。

そのほか、競技や大会公認に関するルールを、このスポーツを統括する上部機関である国際航空連盟（FAI）のルールを国内事情に合わせながら作成・改定する作業、年間リーグ成績を基に、国際航空連盟が公認する世界選手権・大陸選手権に派遣される日本代表チームメンバーの選考も行っています。

また、新しく大会を主催したいエリアに対して、助言、サポートも行っています。

活動は主に、大会を利用してのフィジカルミーティングおよびズームによるミーティングそしてメールで行っています。やる気旺盛な方のご参加をお待ちしています。

委員長 岡 芳樹

教員・スクール事業委員会

当委員会は、ハンググライダー・パラグライダーを安全に普及していくための基盤として、スクーリングと検定に関する決めごとを作り、実行しています。近年は、教員や上級タンデムパイロットの技術面の向上に取り組んできました。今後はさらに、教員やタンデムパイロットの養成制度の整備を目指しています。

現状の教習と検定に関する制度は改善の余地が大きいあります。新しい意見を持ち、実現につなげていく行動力のある方を募集します。

委員長 北野 正浩

安全性委員会

ハンググライディング、パラグライディングを安全に安心して楽しめるよう、またそうしてこのスポーツの振興に資するよう、事故の情報収集、調査、分析を行い安全性にかかる注意喚起、HP、JHFレポートなどにて情報発信を行っています。

事故を減らす・無くすことにより、

安全なスカイスポーツとしてイメージアップさせ、フライヤー人口増加へつなげたいと考えています。これらの作業を行うための経験、知識、能力のある方を安全性委員として募集いたします。

委員長 伊尾木 浩二

補助動力委員会

補助動力飛行とは、滑空だけではなく航空機の特性を強く併せ持つことから、フライトの自由度が高い一方で、補助動力特有の安全知識の普及には地域の格差、個人差があるのが現状です。それを補うために、当委員会ではフライトモラル、グライダーだけではなくエンジンユニットを含む機材の取り扱い、特に水没事故時の浮力体の注意点に関する注意喚起、安全セミナー、動画作成などの情報発信に力を入れており、特に現在、補助動力版上級タンデム証の新設を、現状上級タンデム証の内容を兼ね合わせて実施できないかと目指しております。

近年増大している重大フライト事故の未然防止の為にも、フライヤーの皆さん、委員会にご応募ください。

委員長 小川 勝良

制度委員会

当委員会は、公益法人であるJHFの諸規定や制度が法律や定款および事業目的に抵触しないよう、ならびに諸規定や制度相互の整合性を確認するため活動しています。

【活動の概況】

- ・理事会の諮問に応じて各種規程、規約の新設・改正案を作成する。
- ・全ての委員会と連携をとり、新たな制度案や規程案、また規程の見直しを理事会に提言する。

【制度委員会に求める方】

- ・ハンググライダーやパラグライダーを愛する方。
- ・一般企業・公企業に勤務経験がある、公務員経験がある、或いは自営業を営む方で一般的な社会常識をお持ちの方。
- ・文書の読み込みができ、文書作成が

できる方。

- ・パソコンメールや、Zoom等のオンライン会議のできる方。

対象を老若男女幅広く求めています。是非ご応募ください。

委員長 中瀬 誠

ハングパラ振興委員会

当委員会の目的は「今飛んでいる人が飛び続けられる環境作り」です。このスポーツの社会への認知度を高め、飛ぶ仲間を増やし連携を広げ、多くの方が安全に永く飛び続けることができる環境作りを進めます。

この目的に関心をお持ちの方を広く募ります。以下は活動内容です。

- ・永く続けるための安全確保に関する議論、関連委員会との連携
- ・このスポーツを一般に広く知つてもらい社会的に認知してもらう活動
- ・外部サイトを活用した一般向け情報発信：スポーツナビ（Yahoo! JAPAN）、PR TIMES等
- ・体験会等イベントへの協力
- ・フライヤー会員への情報提供：JHFレポートやweb等の活用

・「フライヤーズボイス」定期更新体制の支援

- ・JHFレポート編集への協力
- ・パンフレット「ご家族の皆様へ」(仮称)の継続的な更新
- ・外部組織との連携窓口としての機能
- VR体験（リスクの少ない体験）に関する大学研究室との協力体制維持
- ・上記のほか、委員会の目的のための試み

委員長 堀江 譲

役員選任実行委員会

当委員会は、2年に一度の役員改選が行われる通常総会の、役員選任議案で実施される議決権行使の正会員投票を円滑に進めるための事務管理を担っています。併せて、今後のJHFのより健全な経営に寄与いただけるような理事・監事の候補者勧誘活動も行っています。

次回の役員改選は2027年の通常総会で行われます。

広く人脈を持ち公正な判断ができる方を委員として求めています。

委員長 鈴木 由路

応募方法と締切日

□応募方法：応募用紙に必要事項を記入して、JHF事務局にメール（ファイル添付）、ファックス、郵便などでお送りください。

応募用紙は、JHFウェブサイトのTOPICS、『JHF委員会委員を募集します〔1月26日〕』からダウンロードしてください（ワードファイル）。ダウンロードができない方、ワード使用不可の方は、お手数ですが、事務局にご請求ください。

□応募締切日：2026年3月10日

□選任：理事会で選任を決定

□任期：2026年4月1日～2028年3月31日

□定員：教員・スクール事業委員会と安全性委員会が6名、他の委員会は5名

□その他：委員会活動には交通費（実費）と日当（5,000円）等を支給

不明点はお気軽にJHF事務局にお問い合わせください。お手数ですがメールにてお願いします。

E-mail:info@jhf.hangpara.or.jp

JHFの動き

若いパイロットを中心に

安全セミナーを開催しました

ハングパラ振興委員会の提案から、安全性委員による若年層パイロットを中心とした安全セミナーを11月8日（土）に静岡県のスカイ朝霧で開催しました。講師はオンライン参加で16名が受講しました。



安全への意識をもっと高めてもらいたいと開催。

上級タンデム技能証検定会

2025年度も各地で実施しました

2025年度上級タンデム技能証検定会を下記のとおり行いました。

6/25～26 石川県獅子吼

7/15～16 静岡県朝霧（悪天候中止）

9/2～4 北海道ルツツ

9/16～17 長野県木崎湖

10/28～29 山形県十分一山（悪天候中止）

11/18～19 静岡県朝霧

11/26～27 静岡県朝霧（ソロフライト検定のみ）

12/16～17 和歌山県紀の川

12/24～25 静岡県朝霧

1/13～14 静岡県朝霧

1/17～18 静岡県朝霧

今後の検定は決まり次第JHFウェブサイトでご案内しますので、ご確認をよろしくお願いします。

アキュラシーアジア選手権

日本チームメンバーを決定

2月に開催の「第5回FAIパラグライディング・アキュラシーアジア選手権 in Thailand」に参加する日本チームメンバーが決まりました。

河本勇吉、梅迫賢一、花田瞬、川村眞、岡芳樹（チームリーダー兼）、伊藤まり子、内田薫の皆さんです。次号掲載の報告をお楽しみに。

期間：2026年2月7日～15日（9日間）

開催地：タイ Pha Tak Suea, Nongkhai

参加国（選手数）：約22ヶ国（130名）予定

<https://civlcomps.org/event/5th-asian-pga-championships>

ハンググライディング日本選手権

クラス1・クラス5ともに足尾で

二つのハンググライディング日本選手権の開催地が茨城県石岡市の足尾山エリアに決まりました。開催日は下記のとおりクロスカントリーシーズン。日本選手権誕生はもちろん、スケールの大きな競技が期待されます。

□2026ハンググライディングクラス5

日本選手権 in ASHIO

2026年3月26日（木）～29日（日）

□2026ハンググライディングクラス1

日本選手権 in ASHIO

2026年4月2日（木）～5日（日）

■検定、セミナー、大会などの予定はJHFウェブサイトでご案内しています。

<https://jhf.hangpara.or.jp>

県連だより

■空からプレゼントと笑顔を

広島市ハング・パラグライディング連盟

広島市ハング・パラグライディング連盟（広島県、メンバーは約70人）では、クリスマス前の12月21日（日）に、広島市安佐北区白木町の神ノ倉山（561メートル）からサンタクロース姿でフライトし、子どもたちに空中から

プレゼントを配りました。

メンバーは普段は広島市の神ノ倉山・荒谷山をホームエリアに活動しており、「地域の人にお礼を」と、1989年から空からのプレゼントを続けています。

この日はお菓子330個を用意し、サンタクロースやトナカイの衣装を着た

9人が、神ノ倉山ティクオフから飛び立ち、ランディング場近くの広場に集まつた子どもたちに、上空からパラシュートを付けたお菓子を落したり、着陸後にも待ち受けた子どもたち全員にお菓子とともにたくさんの笑顔を届けることができました。



空からやってきたサンタパイロットたち。

JHF LIVE

ハング・パラの魅力を随時発信中

JHFの活動をいち早くお伝えするため、ハング・パラ振興委員会が中心となって立ち上げた『JHF LIVE』ですが、大会の様子やフライヤーへのインタビューなどを動画で随時発信しています。

皆さま、情報発信源となるXアカウントのフォローと拡散をお願いします。

Xをされていない方のためのポータルサイトも用意しました。右下の

QRコードのサイトを「お気に入り」に保存していただけたら幸いです。メールアドレスを登録すると、新しい投稿のお知らせをメール通知で受け取れます。



[X]

https://x.com/JHF_LIVE



【ポータルサイト】

<https://jhffhangpara.wixsite.com/jhf-live>

アンケートにご協力をお願いします！

JHFレポートの内容をより良いものにするため、アンケートを実施中です。ぜひご回答くださいようお願いします。



【アンケート回答フォーム】

<https://tinyurl.com/jhfrepq>

学連ニュース

今年度も山形県十分一山にてパラグライダー新人戦が開催され、全国から10名の選手が集まりティクオフおよびランディングの技術を競い合いました。

初日は昼頃から風が強まったため競技は1ラウンドのみの成立となりましたが、学生たちは地域貢献として十分一山周辺に不法投棄された粗大ごみを回収し、大会以外の面でも積極的に活動しました。夜にはレセプションが行われ、各大学がそれぞれの練習状況を共有し交流を深めました。開始当初はやや緊張した雰囲気もありましたが、時間が経つにつれ和やかで温かい空気に包まれ、学生同士の絆が深まる場となりました。

2日目は天候も良好で、競技を無事実施することができました。選手たちは普段とは違う風や地形に苦戦しながらも、飛んでいるうちに慣れていく初めてのエリアでのフライトを楽しみながら、上達していました。初めての他エリアで緊張している選手も見られ

ましたが、良い緊張感の下、楽しく安全にフライトすることができました。いつもと違う場所でフライトするには新人戦は良い機会であると思います。

大会を支えてくださったインストラクターやスタッフの皆様に感謝するとともに、めったにない貴重な経験をしていることをあらためて実感しました。新人戦を機に他エリアの学生とも仲良くなり、いつか飛びに行ってみたいといった前向きな声も聞こえました。

学生連盟としては、今後多くの大会を企画し、学生フライヤー全体を盛り上げていきたいと考えています。しかし近年は参加人数が減少傾向にあり、いかに競技の魅力を伝え参加者を



選手間の交流をはじめ多くの収穫があったPG新人戦。

増やしていくかが大きな課題となっています。今回の新人戦では、他エリアでの飛行や選手同士の交流を通じて、多くの学生が新たな刺激や達成感を得ました。こうした経験を各自が自分のエリアへ持ち帰り、仲間に共有していくことが、学生フライヤーを盛り上げる上で重要です。

さらに、今年度は2月のパラグライダー学生大会「パラ学」、3月のハンググライダーの新人戦と龍門学選が控えています。今後の大会をより活気あるものにするためには、今回参加した学生はもちろん、過去に大会へ出場した経験者が中心となり、競技の魅力や大会に挑戦する意義を積極的に伝えていくことが求められます。初心者が参加しやすい雰囲気づくりや、安全に飛ぶための知識・技術の共有も、参加者増加につながる大切な取り組みです。学生同士が互いに支えあいながら、残りの大会をさらに盛り上げていきたいと思います。

PG新人戦実行委員長 齋藤 嵩文



ホームエリア：紀の川ライトパーク（和歌山県龍門山）・
靈石山ライトエリア（鳥取県靈石山）
所属スクール：ナガエアーハンギングライダースクール
サークル名：RIDGE RIDERS（リッジライダーズ）

■各ホームエリアの特長や魅力は？

靈石山の特長は、テイクオフ（TO）～ランディング（LD）の高度差が約300mに対し、直線距離が約1300mで、シングル機（初級機）でも余裕をもって届く点です。またTOからLDが目視でき、LDがとても広く、初飛びでも安心です。

靈石山の魅力の一つ目は、リッジソアリングが比較的簡単にできること。北成分が入っていれば基本的にどの風向きでもリッジがかかる斜面が広く、リッジソアリングの練習に最適です。二つ目は立地の良さです。日本で最もハンギングライダーの練習に適していると言われる鳥取砂丘から靈石TOまで車で40分。午前は砂丘講習をし、午後は山飛びをすることができます。

龍門山の特長は、TO～LDの高度差が約570mあり、上手な人であれば平均1000m・1時間超のフライトができます。サーマルソアリング初心者でも条件がいい日は1000mまで上昇できるチャンスがあります。

龍門山の魅力の一つ目は、サーマル



靈石山TOから鳥取砂丘方面を見る。眼下に広いLDが。

入星 光輝 ハングフライヤー

非日常な日常が連なってく色あせない日々を

ソアリングの可能性が高いこと。靈石山と比べてTO高度が高く、山に沿って流れてきたサーマルがある程度まとまった状態になるので、より強く、たくさんのサーマルが存在しています。二つ目は、社会人フライヤーとの交流ができる事。上手な社会人がよく飛びに来るので、エリアやハンギング全般に関する色々な知識やアドバイスをもらったり、先に飛んでサーマルの位置を教えてもらったりします。

■ハングを始めたきっかけは？

僕はもともと“ハンギングライダー”を知らなかったのですが、大学の休み時間に「うちの大学、ハンギングライダーサークルがあるらしい」と小耳にはさみ、体験に申し込んだのが最初です。昔から『一日中雲や星空眺めていたい』と思うほど自然が好きだったのはあります。漠然と『高校の部活とかではできないような面白いことをしてみたい』と思っていたので、ハンギングライダーという単語を耳にしてすぐにインスタで調べDMを送りました。

そこから『このサークルに入ろう』と決めたのは、GWの新歓合宿の時です。前週の体験会も含め、社会人の先輩がみんな笑顔で優しくていい人ばかりで、心の余裕があるというかなんというか、とにかく『こんな風に大人になっても楽しく続けられるって最高だな！』って思ったからです。それにしても新歓合宿めっちゃ楽しかったなあ…

■ハンギングライダーの魅力は？

それはもちろん空を飛べることです！

自然の力だけを使って自由に飛びまわることができるのはやっぱりハンギングの一番の魅力だと思います。まだまだ今のレベルだとそんなことは言っているれないし、僕はリッジライダーズなんですが、リッジよりもサーマルの方が好きですね。自分の実力で上げている感や、より高いところに行ける高揚感、一番は山から離れて自由に飛び回れる鳥感があるからサーマルはたまりません！

■飛びこと以外のハンギングの魅力は？

第1位は一生の友達ができる事。ハンギングライダーはいつでもどこでもできるスポーツではなく、特に初飛びをするまではごく限られた場所でしか練習できません。うちのサークルでは、5月中旬～11月上旬は天気が良ければ毎週末鳥取に行き仲間と過ごします。長距離を車で移動したり、何時も砂丘で走ったり、温泉に行ったり、みんなでご飯を作ったり、最高に楽しい合宿です！ 山から飛べるようになれば、ツアーや大会などで1週間以上一緒にいることもあります。特に気のおけない仲間は“一生の親友”や“血の繋がっていないきょうだい”的なかけがえのない存在だと感じています。

第2位はハンギング界の居心地の良さ。学生時代にハンギングを始めた先輩たちが社会人になっても続けていて、みんな活き活きしててすごく楽しそう。『自分もあんな風に年齢を感じさせないような愉快な大人になりたいなあ』って思います。とにかく、空気感がすごく自分に合っていて『一緒にいるだけで肩の力が抜けて自然体でいられる』ところがすごくいいと思います。

第3位は全国に友達ができる事。大会やツアーや普段は関わりのない学生と交流する機会があり、すぐに仲良くなれます。離れていても心のどこかで勝手に競い合って『今度会う時までにもっと上手くなってやるぞ！』って気持ちが湧いてくるんです。

■これから目標は？

1本のフライトでなるべく長い時間飛びたいので、サーマルセンタリングを上手くできるようになります。あとは、いつかXCレース形式の大会に参加したり、飛んだことのないエリアを飛んだり、クロカンをしたりしたいです。せっかく大会に出るならやっぱ誰にも負けたくないでこれからも向上心を持って飛ぼうと思います。

■この記事はダイジェスト版です。全文はJHFウェブサイトでご覧ください。バックナンバーも掲載しています。



撮影：田中元気

しつこく30年以上、世界に挑み続けたら世界チャンピオンになられました。

第10回FAIハンググライディングクラス5世界選手権 ■世界選手権者 板垣 直樹

出るつもりのなかった世界選手権

今回の世界選手権は出場を考えていなかった。前年のプレ大会を見ても、渋いコンディションで大きくなれないタスク、下りる所の少ないエリアと、魅力を感じられなかったからだ。飛んだ経験のないこのエリアで勝てるイメージが全く湧かなかったこともある。しかし、早くから世界選手権出場の意思を固めていたチームの選手から「是非、一緒に参加して欲しい」と何度も強いオファーを受けて出場を決意した。そして、出場にあたり自分の今までの最高の順位の5位を超えて個人3位入賞することを目指とした。

7月10日にドイツのA-I-R社で機体を受け取り1500km走って、現地入りできたのは大会本番の3日前。毎回のことながら余裕のない日程である。

公式練習日にはチームの選手がトラブルで機体を壊し軽傷。翌日の練習タスクで俺はゴールできず狭い下り斜面にランディングし、回収に2時間以上かかり散々だった。

粘りに粘って優勝を引き寄せる

そんなこんなで全く気分が乗らないまま競技初日を迎えた。練習で2回飛んだとは言え、全く知らないエリアなのでキープハイ・キープスローで先頭集団についていく作戦だ。途中で先頭に出たが、そのまま先頭で飛びたい気持ちをグッと堪えて結果オーライの三番手でゴールすることができた。

今までの俺なら先頭に出た所でそのままトップゴールを狙っていたが、練習日の失敗で慎重になった結果だ。

競技2日目の飛びが優勝に繋がったのは間違いない。殆どの選手がタスク前半でランディングする中、前世界選



日本チームのメンバーに祝福される。提供：田中元気

手権者のアントン（オーストリア）と二人で5時間以上飛び続け、アントンが下りた後も一人で粘りに粘り93km。ゴールできなかったがこの日のトップとなり、総合でも1位となった。

競技3日目はタスクのコース上の野火を消すためヘリコプターが飛び、タスクストップとなった。この日も先頭集団のやや後方を飛んでいたが、サーマルの渋くなったエリアで前を飛ぶ選手が低くなった所で後方から高くなり、先頭に出た時間でタスクストップ。高度の関係で2位とはなったが正に幸運としか思えない。

3日目が終わった時点で、優勝を意識してかチームの選手がソワソワし、ライバル選手がプレッシャーをかけてきたが、このまま勝てるほど世界選手権は甘くないことはよく知っていたし「自分の目標は3位、あと二つ順位を下げても大丈夫」と言い聞かせ、一喜一憂することなく平常心を心掛けた。

また、国別団体戦の上位3チーム（スペイン・ドイツ・オーストリア）の順位が毎日入れ替わる接戦となったことや、気象やアクシデントによるレストデーや競技キャンセルがあったことで、ほどよく休め、気分転換できたのも自分にとって幸運だった。

長いハンググライディング世界選手権の歴史の中で、その王者はヨーロッパの選手が大半を占める。その中でアジア人として初の世界チャンピオンの座に就けたことは、このスポーツを行う日本の選手にとっても大きな自信と勇気となったのではないだろうか。

今回、世界選手権者となれたのは多くの方々のサポートや応援があってのこと。関係各位に心より感謝申し上げます。また長い間、理解と協力をしてくれた家族にも感謝します。ありがとうございました。

最後に。スペイン・アジェールの世界選手権で最も長い距離を飛び、最も多くゴールし、そして最もこの大会を楽しんだ選手であると自負していることを加筆しておく。

初世界選手権は惨敗だった

初めてハンググライディング世界選手権に出場したのは1999年、イタリア・モンテクッコ。現在のクラス5がこの時はまだクラス2として18年ぶりに開催された大会に35歳で挑んだ。成績は18位、結果から言うと惨敗だった。初めてのエリア、まだ乗り慣れていない機体、参加選手全員が自分よりも上手い、凄い選手に感じられた。現在も英語力はほとんど変わっていないが、言葉が通じないことやクラス2日本代表として一人で参加したこともあり、萎縮して思うように飛べなかった。

2001年のスペイン・アルゴドナレス大会（ワールドエアゲーム）では前年のプレ大会に出場したこともあり5位入賞。その後、2002年のアメリカ・シェラン大会11位。2004年にオーストリア・グライフェンベルク25位。2006年アメリカ・フロリダ7位。2008年イタリア・モンテクッコ6位。2016年マケドニア・クルシェボ6位。2018年クルシェボ7位。2023年クルシェボ6位。

何度もトップ10位内の入賞をし、三度連続となったマケドニアでは常に優勝を意識して飛んだ。

※この他に2010年のドイツ・テーゲルベルクでは不成立となったが100km弱のタスクでトップゴールし優勝。2017年のドイツ選手権優勝。

自分のフライトスタイルは世界で通用する上げの速さだ。特にサーマルの弱い渋い条件では、どの選手よりも早く一番上に出ることができる自信がある。そして一番上から先頭を飛び、自力でサーマルを見つけ、そのまま先頭でゴールする。それができれば理想だが、世界選手権の舞台では100数十kmに及ぶタスクが組まれる。それを10日間飛び続けるのは簡単ではない。

それでもそんな飛び方を自分のスタイルと貫いていた。

第13回FAIパラグライディングアキュラシー世界選手権 熾烈なノックアウトを勝ち抜いたのは本命と新星

2025年10月9日-19日 トルコ共和国 Alanya 報告：チームリーダー／日本代表選手 岡 芳樹

13回目のアキュラシー世界選手権は36の国・地域から140人（内女子28人、ジュニア19人）の選手が参加。日本チームは、男子4人（河本、花田、古田、岡）、女子1人（橋本）。8日間のうち7日間競技を行い（初日から7日間で12ラウンドをこなしたため最終日の競技は行われなかった）、ノックアウト方式により12ラウンドが成立した。

好天に恵まれ順調にフライト

大会会場のAlanyaは、トルコ最大の都市イスタンブールの南東約540kmに位置する。フライトエリアは町の北西。山頂近く（標高680m）と山腹にティクオフ（標高350m）があり、山頂近くのティクオフから南に約4kmのビーチがランディングとなっている。実際には山頂近くのティクオフのみが使われた。

ティクオフは、機体5機は楽に広げられる横幅と、適度な斜度の斜面が20mほど続く理想的なもので、東南東から西南西までの南寄りの風でティクオフが可能。ただし石畳なので雨には強いがキャノピーには優しくない感じ。

ランディングは南西がほぼ正面となる奥行50m、幅50mほどのほぼ平らな砂地。ただし、正面の風向きだとアプローチ手前に、少し高めの木があるので注意が必要。

コンディションとしては、競技開始前まで午前中は雨で飛べないことが多かったが、競技が始まると雨が降ることは無く、飛べない風が1日の半分くらい吹いただけでそれ以外はほぼ順調にフライトすることができた。

期間中、ティクオフの風はほぼ正面で、振れても左右に45度ほど。強さは1mくらいの弱い時もあるが、平均的に3~4mで時折6mくらいになる。ラ

ンディングは、朝のうちは左クロスで時間と共に正面から右クロスに変わり、強さは平均1~3m。サーマルの影響で5mほどになることもあった。日中は、ティクオフからランディングまではサーマルバンバン状態で、結構荒れ気味であったが、ランディングで荒れるることは全くと言ってよいほどなかった。

日本チームは全員、レジストレーションの前日に、6~8本の練習フライトをこなし、エリアの特性をつかむことができたのは幸いであった。

ノックアウト方式の強烈プレッシャー

今回も前回同様ノックアウト方式が採用され、6本飛んだ時点でトップ60に残らなければ先に進めない。世界選手権に初めて参加する河本、花田の両選手を除く、古田、岡、橋本選手は前回と同じ目に遭わないようにならねばならない。世界選手権に初めて参加する河本、花田の両選手を除く、古田、岡、橋本選手は前回と同じ目に遭わないようにしたいとは思うが、ランディングがサーマルの影響がほぼないビーチで、5cm以上を踏んだら即ノックアウトとなるのでプレッシャーが半端ない。

一応ここでノックアウトシステムについて説明すると、6ラウンドが成立するまでは参加選手全員がフライトをする。6ラウンドが成立した時点で、総合でトップ60（60位に複数の選手がいた場合60位の選手は全員）に残った選手が、それ以降競技を続けられる。また、国別競技ではトップ6に残った国がそれ以降の競技を続けられる。女子およびジュニアクラスのトップ6人は、たとえ総合のトップ60位に残っていなくてもそれ以降の競技が続けられる。それ以降では、個人総合クラス以外ではノックアウトはされない。個人総合クラスでは7、8ラウンド成立時点でトップ40人が残り、競技を続行。



日本チーム。左から古田、花田、岡、橋本、河本各選手。

そして9、10ラウンド成立時点でトップ20人が残り競技を続行。したがって6ラウンド終了時点でトップ60人に残れないと、その先競技はできずに、上位選手の飛びを見て学習することになるか、早々と帰国することになる。

今回のレジストレーションは早いものの順ではなく、国別に時間を割り振られ、分かりやすく時間の無駄が無いように工夫されていたのは良かった。また、レジストレーションに際し、各選手が使用する機材（グライダー、ハーネス、ヘルメット、シューズに取り付けられているパッドの踏み位置を思ったところにするための突起物、そして飛行重量が機体の認証範囲内に収まっているか）がルールに合致しているかのチェックがこれまでになく入念に行われた。実際、数人の選手がダメ出しをされ、機体あるいはハーネスを購入するか借りるか、突起物を改造するかを強いられたようだ。また、競技が始まつてからも抜き打ちでチェックが行われ、数人の選手がレジストレーションに差し出したシューズとは別のシューズを使用していたことで警告を受ける羽目に陥ったことがあったようだ。

大接戦の末に三つのタイブレーク

さて競技であるが、好天に恵まれ、順調にラウンドが進み、5日目に問題の6ラウンドが終了しノックアウトが



広々として適度な斜度の理想的なティクオフ場。



50m四方ほどの砂地のランディング場。

行われ、日本チームからは花田のみが合計5点、7位でクリアーした。しきい値は16点（5ラウンド終了時点で最悪の1ラウンドの点数は落とせるので5ラウンドの平均点は3cmということになる）。ブルガリアのヴァレリ、カザフスタンのアルマス、スロベニアのアントンもクリアーできなかった。

次のノックアウトは6日目の8ラウンド終了時点で花田は合計10点、16位でクリアー。しきい値は何と16点（最悪の1ラウンドを落として7ラウンドの平均が2.3cm！）。ここでは、ルーマニアのジョージ、韓国のキム、ドイツのシューベルト父が脱落。

引き続き10ラウンドまでが終了し、3回目のノックアウトが行われ、花田は合計12点、11位でクリアー。しきい値は15点（最悪の1ラウンドを落として9ラウンドの平均が1.7cm！）。この回のノックアウトで、セルビアのドラゴン、デヤン、ゴランの3人、ポーランドのマルケッタ、チェコのヴラステイミル・クリックナが脱落。

最終となる11、12ラウンドは翌日の17日に行われ、その結果は、何と、女子、ジュニアクラスで3位までにタイスコアが出て、ルールに従ってタイブレークのフライトが行われることに。

まず、女子2位のタイブレークが行われ、マルケッタが1cm、リエッタが2cmを出し、2位はポーランドのマルケッタ、3位がコソボのリエッタに。次にジュニア3位のタイブレークでは、ジフンが3cm、リナスが2cmで、3位にドイツのリナス、4位に大韓民国のジフンに決定。続いてジュニア1位



個人総合表彰。中国のヤン・チェンが世界のトップに。



女子表彰。中央に立ったのはチェコの新星カラリナ。



ジュニア表彰。タイブレーク1cm差でカラリナが勝利。



国別表彰。中国、インドネシアはやはり強い。

2位 ズー・ユー 中華人民共和国

3位 イヴァン・パヴロフ セルビア

19位 花田 瞬 79位 河本勇吉

102位 橋本みさ紀 105位 古田岳史

110位 岡 芳樹

[女子]

1位 カロリナ・クウデロヴァ
チェコ

2位 マルケッタ・トマシコヴァ
ポーランド

3位 リスエタ・タキ コソボ

18位 橋本みさ紀

[ジュニア]

1位 カロリナ・クウデロヴァ
チェコ

2位 ケレム・ディンサー トルコ

3位 リナス・シューベルト ドイツ

9位 花田 瞬

[国別]

1位 中華人民共和国

2位 インドネシア

3位 コソボ

16位 日本

中国はやはり強く、本命のヤン・チェンが世界チャンピオンに、また国別でもチャンピオンとなった。今回驚いたのは、これまで無名であったチェコの若き女子が女子世界チャンピオンとジュニア世界チャンピオンの2冠を獲得したことであった。

今回も前回同様、世界のレベルの高さを痛感した。

最後に、改めて、世界のレベル、並びに選手層の厚さを思い知らされました。また、総合19位につけた花田選手を除いて不甲斐ない結果でしたが、サポートしていただいたJHFおよび応援をしてくださった皆様に感謝し、さらに精進して良い結果を今後の大会で残せるように努力いたしたいと思います。

[総合]

1位 ヤン・チェン 中華人民共和国

2025パラグライディングアキュラシー日本選手権 in ASAGIRI

河本勇吉が初の選手権者!女子は橋本みさ紀が連覇!

2025年11月29日-30日 静岡県富士宮市朝霧高原 報告:イベントジャッジ 鈴木 洋史

「2025パラグライディングアキュラシー日本選手権 in ASAGIRI」が11月29日、30日の二日間で行われた。参加選手は国内選手26名にモンゴルからの3名、インドネシアからの1名を加えた30名がオープクラスで争うことになった。

Day 1

天気、風ともに良好の予報で競技を開始、一日を通して雲が多めであった

ためサーマルはあまり発生せず、順調に8R（ラウンド）が成立。なんと0スコアが8本も出る大変レベルの高い戦いが繰り広げられる中、インドネシアから参戦のDamar Harimurti選手が1位となり世界選手権トップ10入りの実力を發揮する。女子ではモンゴルから参戦のBolormaa Bayaraa選手が他をリードし、海外勢2名がそれぞれトップで初日を終える。

しかしながら時折急変する風に翻弄され多くの選手が大きめのスコアを抱える。Damar選手も4Rでの転倒があり1000点を持っているので、どのような結果になるか、まだわからない状態。

この日のレセプションは、多くのラウンドをこなしたこともあり海外選手も交えてこの日の成績や先日の世界選手権、今後の海外の大会に関する話題等でとても和やかな雰囲気で盛り上がった。

Day2

この日は一転してサーマルが発生し、各選手ミスが出て目まぐるしく順位が入れ替わる日となった。

前日トップのDamar選手がこの日は「71」と「124」のスコアを出す。世界ランク上位の彼でも「とてもトリッキーなエリア」だと語っていたほど。前日の転倒でのスコアがあるため、このスコアが計上され11Rでは2位に後退、代わりにこの日「21」以外はすべてパッドスコアで纏めてきた河本勇吉選手が逆転。

女子はこの日もスコアを纏めてきたBolormaa選手が11Rまで首位をキープ。橋本みさ紀選手が追う展開で戦いの行方は最終12Rへ。

最終ラウンドはティクオフ順をソートし下位の選手からスタート。女子の優勝をかけて橋本選手が渾身の「0」を踏み、この時点で橋本選手が昨年に続き2年連続の女子日本選手権者に決まるが、Bolormaa選手もここで「2」を出して逃げ切り、オープンクラス女子はBolormaa選手が優勝となった。

一方、Damar選手が「3」を踏み河本選手にプレッシャーをかける。前日のレセプションでは「世界選手権はプレッシャーに負けてしまった」と語っていた河本選手だったが、プレッシャーを跳ね除ける「3」のスコアで今大会を締めくくり優勝、嬉しい自身初の日本選手権者となった。

最終ラウンドは最後の8人がすべてパッドスコアの大変レベルの高い戦いとなった。また2日間で最大の12Rを行えたことは大変ではあったが、選手、スタッフともに良い大会となった。

モンゴルの選手から日本選手の皆さんへ「今度は私たちの国でW杯やカテゴリー2大会を開催するので是非お越しください、待ってます」とのこと。

2026年は2月にアジア選手権がタイで行われ、多くの選手が登場を申請してくれているので、そちらも是非頑張ってきてもらいたい。

[オープン：スクラッチクラス]

1位 河本 勇吉 大阪	178点
2位 Damar Harimurti インドネシア	231点
3位 上野 亨 群馬	351点
4位 Bolormaa Bayaraa モンゴル	359点



スクラッチクラス入賞者。次はアジア選手権だ。



12ラウンドを戦い抜いた選手たち。おつかれさま！

5位 和田 浩二 静岡 441点

6位 橋本みさ紀 大阪 519点

[オープン：スクラッチクラス女子]

1位 Bolormaa Bayaraa

モンゴル 359点

2位 橋本みさ紀 大阪 519点

3位 伊藤まり子 愛知 1774点

[U-26クラス]

1位 Damar Harimurti

インドネシア 231点

2位 花田 瞬 福岡 719点

[ハンディキャップクラス]

1位 上野 亨 群馬 4点

2位 Bolormaa Bayaraa

モンゴル 15点

3位 河本 勇吉 大阪 16点

[チーム戦]

1位 Welcame (海外選手チーム)

10点

2位 スカイ朝霧 52点

3位 TOP白沢 68点

日本選手権者から



河本 勇吉

アキュラシー競技4年目で日本選手権者となり、大きな喜びを感じております。

初日は曇りで安定したコンディショ



プレッシャーもなんのその、河本選手が日本一の座に。

ンを期待していましたが、風向や強さ、空気密度がラウンドごとに変わり、難しい状況でした。序盤のミスで諦めかけましたが、上位選手にも乱れが出て、初日が終わってみれば優勝を狙える位置につけることができました。2日目は晴れてサーマルの荒れを予測し、スイングをやめて小さくまとめる降り方に変更しました。この作戦が功を奏し、世界ランク上位の海外選手がいる中でスクラッチ総合でも優勝できて、とても嬉しかったです。大会を支えてくださった関係者の皆様、共に戦った選手の皆様に心から感謝いたします。

橋本みさ紀

2025年日本選手権は2日間で12ラウンドが成立するという素晴らしい大会となり、その環境を整えてくださった大会関係者の皆様に深く感謝いたします。

私自身、1本目で大きく外す失敗をしてしまい、後がない厳しいスタートとなりました。続くラウンドは失敗を避けようと焦り、やや粗いコントロールが続きましたが、後半は次第に落ち着きを取り戻し、アクセルとブレーキ操作を的確に使いながら集中してターゲットを狙うことができました。12ラウンド目では0スコアを出し、周りの皆と一緒に盛り上がり、最高の形で締めくくることができました。女子日本選手権2連覇を果たせたことを心から嬉しく思います。

2025パラグライディング日本選手権 in 吉野川 台風一週の成立、荒井大悟・平木啓子が選手権獲得！

2025年10月11日-14日 徳島県吉野川フライトエリア（水の丸、三頭山） 報告：実行委員長 棕本 清治

今回のパラグライディング日本選手権は、台風が通過したかと思うと次の台風が発生し、もうだめかと思っていましたが、後半の2日間は競技が成立し「2本選手権」となって良かったです。

競技初日・2日目

初日は台風の接近により天候悪化の予報。全員がテイクオフするのが難しいとの判断でフリーフライトとなつた。

2日目は台風23号の通過で雨の予報のため、バスツアー（高知）及びツーリーラン講習会を開催した。特にツーリーラン講習は、少し前に死亡事故が発生したこともあり沢山の参加があった。九州フライヤーで「プロ特殊伐採業」の浅野さんが講師で、実務的な高度な講習となつた。片吊り、逆さまで木に引っかかった場合、パイロットはどういうに脱出するのか自分でも考えることができました。

競技3日目

台風23号は離れ徐々に晴れる予報。上空の風は強そうでG05市場のゴールレースを設定。

大半がテイクオフ近くでスタート时刻を待つが、後藤選手、荒井選手は吉野川上空でスタートし先行する。第二集団はテイクオフからの東尾根を進む。谷を渡り北岸を目指す者と、そのまま南岸を進む者に分かれる。荒井選手が高速上空で高度を上げ一気にゴールを目指す。小林、平木、多賀選手など、南岸を第二集団が追うが、そのまま荒井選手がトップでゴールした。

ギリギリの高度で突っ込んで足を負傷した選手や、中州に降り川渡りをした選手もいた。安全第一でお願いしたいと思います。

競技最終日

天候はまずまずで、選手の勢いも上がってきてています。昨日と違って、スタート時刻に大半の選手は北岸に渡り、そこから混戦状態が続く。東西に往復する中、徐々に差が開いてゆく。三頭山の東から一気に小林、平木、中村、岩崎、荒井選手と、先頭集団がゴールへと向かう。小林、平木選手は高度が足らず遅れるなか、高度を維持した中村、岩崎、荒井選手が1、2、3とゴールした。その後も、続々とゴール者が出てランディングが賑やかに。選手たちは地元ケーブルTVの取材を受けていた。

この日、山沈が発生したが、浅野さんの活躍で、当日グライダー回収ができた（緊パラは翌日回収）。次回こそは山沈が無いようにと願います。

最後に

スタッフとして岡山、広島をはじめ九州からも参加していただき、この日本選手権ができました。有難うございました。特に海外の参加者の対応は私たちだけではできなかったのですが助かりました。

【総合】

1位	荒井 大悟	千葉	1837点
2位	多賀 純一	神奈川	1751点
3位	中村 浩希	愛知	1738点
4位	平木 啓子	茨城	1690点
5位	福丸 貴大	兵庫	1586点
6位	長島 信一	石川	1570点

【総合女子】

1位	平木 啓子	茨城	1690点
2位	中目みどり	東京	1554点
3位	吉原 紀子	栃木	1447点

【スポーツクラス】

1位	Zhuohuan XIAO	中国	1248点
----	---------------	----	-------



選手、役員、全員の力で日本選手権が成立した。

2位	大田 豊承	長野	1207点
3位	瀧鼻 秀明	東京	1205点
4位	小林 敦之	東京	1171点
5位	辻本 恵一	兵庫	1166点
6位	Xiao YANG	中国	1160点

日本選手権者から

荒井 大悟

2025年度日本選手権者として名前を刻むことができ、大変光栄です。大会当日はコンディションの変化がめまぐるしく、一瞬の判断が勝負を左右するスリリングな展開でしたが「攻守のメリハリ」を意識し、自分らしいフライトを貫けたことが勝因だと感じています。日本選手権ならではの独特的緊張感も心地よく、トップフライヤー同士のガチ勝負は大きな刺激で、改めてパラグライダーの楽しさと奥深さを実感しました。大会を支えてくださった皆さん、応援してくれた仲間に感謝感激です！2026シーズンも思いっきり楽しんでいきます！

平木 啓子

四国入りの際は「一日も飛べないのではないか」と心配しましたが、3日目と4日目は吉野川らしい少し激しめのコンディションとなり、無事2日間成立しました。

吉野川、本当にすばらしいです。

今回の私は、やや前のめりなフライトで、張り切りすぎて降りてしまいそうになる場面も何度かありましたが、さまざまな幸運に助けられ、2日間ともゴールに到達し、女子優勝を果たすことができました！ とても嬉しいです。

いつも応援してくださっている皆さんからパワーをいただいたように感じています。

これからも頑張りますので、どうぞよろしくお願いします。



左から、総合入賞者、総合女子入賞者、そしてスポーツクラス入賞者。時間の都合で表彰式欠席の選手も。

パラグライディングJ, J2, AJリーグ／ハンググライディングシリーズ リーグ首位の座を勝ち取ったパイロットたち

2025年の競技を振り返って

パラグライディング（PG）とハンググライディング（HG）の両競技委員会が運営するJHF競技リーグは、1月1日から12月31日までをシーズンとして、年間ランキングを決定しています。

各リーグでトップとなったパイロットたちに2025年の競技を振り返ってもらいました。

PGジャパンリーグ

[総合]

1位	荒井 大悟	千葉	3947.0点
2位	平木 啓子	茨城	3757.8点
3位	隈 秀敏	東京	3630.3点
4位	岩崎 拓夫	京都	3629.0点
5位	中村 浩希	愛知	3626.9点
6位	山下 敦子	兵庫	3625.3点

[総合女子]

1位	平木 啓子	茨城	3757.8点
2位	山下 敦子	兵庫	3625.3点
3位	中目みどり	東京	3360.0点

[スポーツクラス]

1位	小林 敦之	東京	3410.4点
2位	中川 喜昭	茨城	2857.2点
3位	坂口 実	京都	2674.1点

[日本代表選抜]

1位	荒井 大悟	千葉	305.65点
2位	平木 啓子	茨城	343.90点
3位	岩崎 拓夫	京都	243.30点
4位	多賀 純一	神奈川	237.45点
5位	中村 浩希	愛知	230.20点
6位	山下 敦子	兵庫	205.55点



総合1位
荒井 大悟

2年連続の年間ランキング1位に加え、2025年は日本選手権者のタイトルまで獲得でき、まさに最高の一年となりました。安定したレース展開を心掛けたことで、これまでとは一味違う“大人のフライト”ができるようになったのではないかと感じております。

とはいっても、ここまで結果には自分でも驚いていますが、シーズンを通して積み重ねてきた工夫や挑戦がしっかり形になったことをとても嬉しく思います。そして何より、仲間や大会ス

タッフの皆さんのおかげで、毎戦が本当に楽しく刺激的でした。

この勢いのまま突っ走っていきますので、皆さん2026年も、飛びに、飲みに、どうぞお付き合いくださいませ！



女子1位
平木 啓子

2025年のジャパンリーグランキングで女子1位となることができ、とても嬉しい思います。

ただ、昨年は事故が多く、それがさまざまな思いを抱えながら大会に参加していたのではないでしょうか。

私自身も多くのことを考えさせられる一年でした。それでも、やはり競技は楽しく、学びも多くあります。まだまだ飛び続けたいという気持ちでいっぱいです。

2026年もライバル達と切磋琢磨しながら、安全を心がけつつ勝利を目指していきたいと思います。今年もどうぞよろしくお願いいたします。



スポーツクラス1位
小林 敦之

2024年からJ1フル参戦を始めて2年、昨年も無事に怪我もなく、クラス1位を継続できました。毎回かなりゴールギリギリで飛んでいたので、実際にはポイント差ほどの余裕は全くありませんでした。そしてオープンクラスの選手との差も痛感させられました。正直に、昨年もとても運がよかったです。運のよさが際立ったのは、昨年全ての大会に参加できたこと、それ自体でした。仕事の都合でアメリカ出張が立て込んでおり、足尾と鳴倉は大会翌日に出張でフライトでした。今後も何とかフル参戦するべく、出張計画を調整します。

2026年もスポーツクラスに参戦し、まずは無事に終わらせたいです。そして幸運が続き、クラス1位を継続でき

たら嬉しいです。

PGジャパン2リーグ

[総合]

1位	瀧鼻 秀明	東京	2767点
2位	石黒信一郎	愛知	2758点
3位	下野 悠敬	兵庫	2743点
4位	成瀬太一郎	大阪	2694点
5位	中川 喜昭	茨城	2646点
6位	盛 龍一郎	埼玉	2628点

[女子]

1位	後藤 春菜	東京	2255点
2位	坂本 智春	埼玉	2186点
3位	東 智子	大阪	2116点

[チーム]

1位	熊さんチーム	12点
2位	ラスカル	10点
3位	なんなく紀の川	9点



総合1位
瀧鼻 秀明

年々J2パイロットのレベルが上がり高性能な機材も増える中、皆さんと競い合い年間優勝できたことを、とてもうれしく、また誇りに感じています。

2025年初戦の尾神が悪天候でキャンセルでしたが、続く獅子吼、2回目の尾神、足尾ではコンディションに恵まれ、楽しくレースができました。一方で、後半の白馬五竜や雷山、最終戦の朝霧は天候に恵まれずキャンセルとなったのは残念でした。一番印象に残ったのは足尾Day1です。J2では珍しいXCタスクで、なかなかできないレースだっただけに、心が躍りました。

シーズンを通して安定した飛びができ、常に上位で戦えたことは、自身にとって大きな収穫でした。2026年はさらに腕を磨き、レースでのトップゴルを目指して頑張りたいと思います。そして連覇できたら最高ですね！



女子1位
後藤 春菜

J2女子2連覇しました！ありがとうございます

ございます！ 2025年はあまり天気に恵まれませんでしたが、懇親会や雨天時のセミナーなどもあり、とても実りのある一年となりました。大会関係者の皆様に感謝申し上げます。

獅子吼でスタートに失敗したが切り替えて丁寧にゴールできたこと、足尾のJ2初のXCタスクが面白いレースとなつたことが良い思い出です。

また、セーフティコミッティーを務める機会が多くあり、非常に勉強になりました。自分の怪我やヒヤリハットも含め事故が多く、反省の多い一年でしたが、教訓を活かして楽しく安全に飛べたらと切に願います。

最後に、今回の女子優勝を早坂さんに捧げます。J1も頑張らなきゃ！と鼓舞してくださると思います。引き続き安全に気をつけて、頑張っていきます。

PGアキュラシージャパンリーグ

[スクラッチクラス総合]

1位 河本 勇吉 大 阪	191.3点
2位 梅迫 賢一 兵 庫	164.5点
3位 上野 亨 群 馬	133.5点

4位 川村 真 宮 城	131.8点
5位 和田 浩二 静 岡	130.8点
6位 吉原 薫 栃 木	113.1点

[スクラッチクラス女子]

1位 橋本みさ紀 大 阪	111.6点
2位 伊藤まり子 愛 知	91.6点
3位 坂口 杏 京 都	60.3点

[ハンディキャップクラス総合]

1位 上野 亨 群 馬	184.5点
2位 梅迫 賢一 兵 庫	173.4点
3位 河本 勇吉 大 阪	160.5点

4位 川村 真 宮 城	121.9点
5位 和田 浩二 静 岡	117.1点
6位 吉原 薫 栃 木	110.6点

[ハンディキャップクラス女子]

1位 坂口 杏 京 都	102.4点
2位 橋本みさ紀 大 阪	101.3点
3位 伊藤まり子 愛 知	79.6点

[チーム]

1位 丹バラA	24点
2位 ぴよぴよ	23点
3位 スカイ朝霧	17点

[日本代表選抜]

1位 河本 勇吉 大 阪	280.40点
2位 花田 瞬 福 岡	208.45点

3位 梅迫 賢一 兵 庫	203.40点
4位 和田 浩二 静 岡	199.95点

5位 川村 真 宮 城	177.65点
6位 橋本みさ紀 大 阪	166.10点



スクラッチクラス

総合1位

河本 勇吉

2025アキュラシーリーグで1位になれて、大変光栄に思います。6大会中5大会が成立し、初開催の沼田白沢ではマックス8ラウンド、日本選手権朝霧では12ラウンドが行われ、成立した大会すべて最終ラウンドまで飛べた充実した一年だったと思います。

南陽と世界選手権の日程が重なり、私は4大会のみの出場となりましたが、初戦の朝霧を除く3大会で優勝し、リーグポイントに貢献できました。

新しい選手や実力ある選手も増え、さらなる練習とレベルアップの必要性を感じています。今年もリーグ1位を目指して努力します。

大会運営に携わったすべての皆様に

● 2025年パラグライディングJ, J2, AJリーグを振り返って パラグライディング競技委員長 岡 芳樹 ●

J1リーグ

2025年は8大会が開催され7大会成立、コンディションに恵まれたシーズンとなった。成立したタスク9本のすべてがポイント計上可能なデイクオリティ(DQ)0.2以上でDQ1も4本と、選手にも主催者にも結構戦いがいのあるシーズンとなったと思われる。

しかし残念なことに、リーグ戦で初めての死亡事故が起きました。当然ながら競技中でも安全が第一であるのがこのスポーツの至上命題なのだが、競技に入れ込むことで何とかなるとか、自分に限ってはとか、正常性バイヤスが働いてしまう傾向が人間にはあることを常に意識するようお願いしたい。

一方、良かったことは、前年は不成立であった日本選手権が成立したこと。カテゴリー2であったため海外の5ヶ国から7名の選手が参加。主催者は大変だったが国際交流を促進できた。

リーグチャンピオンは、日本選手権者、荒井選手がDQの高いタスクで常に高得点を叩き出し2連覇を達成。女子はこちらも女子日本選手権者となった手堅い平木選手が2連覇を果たした。

J2リーグ

2025シーズンは7大会と前年に比べて増えたが、コンディションに恵まれず4大会が不成立となってしまった。それも後半の3連戦が不成立になり年間表彰を狙っていた選手たちはプラストレーニングをためたままシーズンを終えることとなってしまったのは残念であった。それでも多くの大会にたくさんの選手がエントリーしてJ2リーグも定着してきた感がある。また2024年からBクラスも大会で表彰することとしたため、Bクラスの選手が参加選手の四分の一ほどを占めて活性化に一役かっている様子が伺える。ぜひ2026シーズンも選手ならびに主催者もこの調子を続けてくれることを期待したい。

一番残念だったことは、これまでJ1、J2リーグを開催したことのない福岡県の雷山でJ2を開催してもらったが、生憎のコンディションで1日も飛べずに不成立となつたこと。ぜひ2026シーズンにリベンジを果たして貰いたい。

リーグチャンピオンには、前シーズン41位からジャンプアップし僅差で2位の石黒選手を押さえた瀧鼻選手。女

子チャンピオンには安定して強さを発揮した後藤選手が連覇を果たした。

【アキュラシーリーグ】

2025シーズンは、6大会が開催され5大会が成立。成立ラウンド数もMAXとなり、選手としても文句のない近年稀に見る結果となった。前年は天候不順でやむなくキャンセルとなつた沼田白沢の大会は、当初予定の6月を8月に延期して開催し、MAXラウンド成立と素晴らしいリベンジを果たし、今後に期待をもたせた。ぜひ続けていただきたいと選手一同願っている。

また、これまでにアキュラシーリーグ大会を開催したことの無いエリアでリーグ大会を開催する際には、JHFから補助金が手当される予定なので、やってみたいと思われるエリア管理者の方は競技委員会までご連絡をお願いします。

リーグチャンピオンは、安定した強さを発揮した河本選手が2年連続制覇。2位に破竹の勢いの梅迫選手、そして嬉しいことにルーキーの上野選手が3位に入った。女子では河本選手同様、安定した強さを見せた橋本選手が2年連続チャンピオンに輝いた。

感謝いたします。



スクラッチクラス
女子1位
橋本みさ紀

2025年は世界選手権への参戦もあり、アキュラシー競技に本気で向き合った一年でした。リーグ初戦は思うような結果が出ませんでしたが、最終戦までに成果を残せたのは、一年を通して仲間と共に練習し互いにレベルアップを目指してきた積み重ねがあったからだと思います。

アキュラシー競技の魅力は、老若男女だれもが同じフィールドで真剣勝負ができる点にあります。競技経験の年数を問わず一緒に練習ができ、互いにフィードバックや励ましを受けられる環境が、継続と成長につながっています。そうした積み重ねの中で、今では「日本チーム」全体のレベルが確実に上がっている手応えと盛り上がりを強く感じており、2026年シーズンがますます楽しみになっています。

HGシリーズ

[クラス1総合]

1位	田中	元気	大阪	2929点
2位	大門	浩二	茨城	2857点
3位	鈴木	由路	茨城	2814点
4位	石坂	繁人	茨城	2765点
5位	小高	史郎	神奈川	2678点
6位	鈴木	博司	岐阜	2629点

[クラス1女子]

1位	野尻	知里	茨城	2213点
2位	中村	思絵	大阪	1455点
3位	櫻井	さやか	栃木	1413点

[クラス1世界選手権選抜]

1位	名草	慧	大阪	200.2点
2位	田中	元気	大阪	167.7点
3位	砂間	隆司	愛知	164.6点

4位	大陽	智仁	茨城	162.5点
5位	鈴木	由路	茨城	142.9点
6位	大門	浩二	茨城	142.1点
[クラス5総合]				
1位	板垣	直樹	茨城	197.3点
2位	塙野	正光	栃木	90.8点
3位	古坂	学俊	茨城	86.5点
4位	宍戸	俊之	茨城	86.5点
5位	山口	裕之	東京	63.4点
6位	岩崎	正芳	群馬	59.7点



クラス1
総合1位
田中元気

2025年は年間を通して安定した成績を残せた1年になりました。

参加して成立したタスク8本中5本で900点台を取ることができ、板敷スプリングフライトでは優勝できました。特に近年は安定した上位でのフライトを目指して心掛けていたので、ランキング1位になることができました。

焦らず余裕をもってフライトする安定した精神力が大事だと思っていますので、今後も続けていければと思います。近年続けている、みんなで上手くなるための競技者育成プログラムでもFledge Camp講師をやらせてもらっていますので、是非とも皆さんとフライト技術を向上させていただけたらなと思います。よろしくお願いします！



クラス1
女子1位
野尻知里

一番印象深いのは来訪三度目にしてようやくテイクオフできた砺波ですね。雲底ビタビタについて、上がらないように速度を出すっていう飛びを初めて実践できたかも。二番目は西富士

の裏の山並みを使って戻ってくる目新しいタスク。一人じゃなかなか行けない場所までも、皆で進めば怖くない。大会の醍醐味だと思います。砺波や信濃平、初めてのエリアを飛べるのも大会のいいところ。それもこれも運営してくれる方々のおかげ、ご協力いただいた地元フライヤーの皆様のおかげです。ありがとうございます。

ハング女子は期待に満ちていて、シリーズ初参加で初ゴールを決めた新人、XC証を心待ちにしているオトナな新人、もうすぐ自由を手にするナイズな心意気のパイロット…オラわくわくすっぞ！とにかく怪我のないように、みんなで楽しく飛んで楽しく競って、楽しく上達していきましょう！



クラス5
総合1位
板垣直樹

国内でも徐々に盛り上がっているClass V競技。ヨーロッパの大会では参加者が年々増え、ドイツ選手権では女性2人を含む50人がエントリーした。

国内の大会は西富士・足尾・南陽・足尾と4大会が行われた。それぞれの優勝者は板垣・古坂・宍戸・岡田と激戦だ。今回、私が年間チャンピオンに選ばれたのはClass Vのルールで世界選の得点が加算されているからというだけで日本国内では個々の選手のレベルが上がり実力が拮抗してきている。

そんな中、国内で一度だが優勝することができ、参加者達と技術を高めあえ、また各エリアのフライトポテンシャルを上げることに微力だが貢献できたのはうれしいことだ。

今後もハンググライディングスポーツに真摯に向き合い更なるレベルアップに努めたい。

● 2025年ハンググライディングシリーズを振り返って

ハンググライディング競技委員長 牟田園明 ●

2025年のハンググライダー競技を振り返るうえで、最大のトピックスは、板垣直樹がクラス5世界選手権で念願の世界チャンピオンに輝いたことである。1999年の初出場から数えて11回目となる世界選手権で、ついに表彰台の中央に立ち、君が代を聞くという悲願を成し遂げた。

もちろん、選手本人の不断の努力が

優勝の最大の要因であることは言うまでもないが、国内競技における仲間との研鑽も大きな支えとなった。

近年、クラス5では年間3大会ほどが開催されており（その多くは板垣さん自身の運営による）、そこで常にハイレベルな競技が展開されている。今後も国内でさらなる実力を磨き、世界の舞台でその力を存分に発揮してくれ

ることを期待したい。

最後に、競技フライトに興味を持つ皆さまへ一言。

競技は、フライトを楽しむための多様なスタイルの一つにすぎないが、競技でしか得られないものはたくさんある。より多くの方が競技に参加し、その魅力に触れてくださることを心よりお待ちしています。

JHFからのお知らせ／お願い

■JHF公式インスタグラムに 動画・写真をご提供ください

JHF公式インスタグラムで、パラグライダー、ハンググライダーを知らない方に興味を持ってもらえるような動画や写真を公開しています。あなたやお仲間の楽しいフライトの様子をぜひ！Googleフォームからご提供をお願いします。ただし一般の人を見て危険に感じるようなものはNGです。詳細はJHFウェブサイトをご覧ください。



[JHFインスタグラム]

https://www.instagram.com/hang_para/

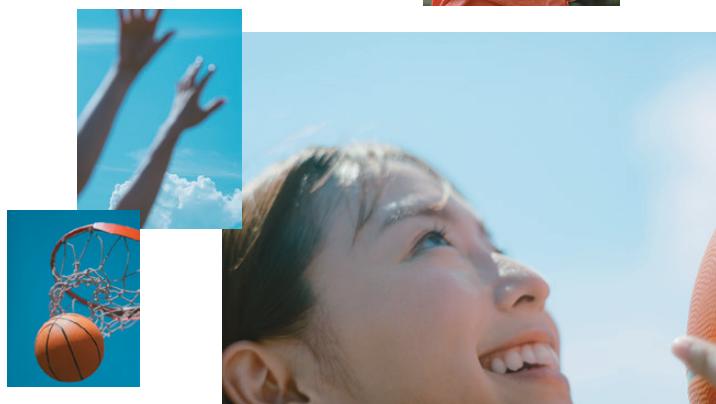
■お名前・ご住所が変わったら 早めにお知らせください

発行のたびに宛先不明で戻ってくるJHFレポートが少なくありません。JHFレポートには、フライヤー会員の

これからももっと、
私はスポーツを楽しむんだ。

卓球歴24年。バスケ歴1日。
卓球の200倍もの重さがあるボールは、
なかなか言うことを聞いてくれない。

それでも、体を動かすだけで気持ちがいい。
初対面でもあっという間に仲間になれる。
競技人生での楽しさとは違う、
スポーツの楽しさに出会えた。



スポーツを極める人も、楽しむ人も、
すべての人のために、
スポーツくじの収益は使われています。

スポーツくじ
スポーツくじは、スポーツと人を育てる仕組み。

⑩ 19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。運営・販売：独立行政法人日本スポーツ振興センター

JHFフライヤー会員の皆様へ メールアドレス登録のお願い

JHFでは会員管理システム等の改修を準備中です。郵便料金値上げへの対応、事務効率化のため、システム改修後は更新通知や会員証等の発行・発送等について、メールを利用してご案内していく予定。またマイページで各種届けができるよう検討していきます。つきましては下のQRコードからお名前やメールアドレスをご登録ください。



【オンライン申請準備】

<https://sites.google.com/view/jhf-online/>

JHFレポート252号

発行日：2026年（令和8年）1月30日
発 行：公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟（JHF）
編 集：JHF事務局
印 刷：株式会社アイセレクト

本レポートの一部あるいは全部を無断で複写複製することはご遠慮ください。

上空利用可能 デジタル無線機 使用のお薦め

JHFではハンググライダーやパラグライダーのフライト中に使用する無線機として「簡易無線登録局」対応のデジタル無線機の使用を推奨しています。

デジタル方式なので混信が少なく、クリヤーで聞き取りやすくなっています。上空利用15チャンネルを搭載し現在販売されている機種は、STANDARD製のVXD1S、ICOM製のIC-DPR4 PLUSシリーズ、八重洲無線のSRD580・SRD585シリーズです。

なお、JHFではSTANDARD製デジタル無線機を13台保有し、フライヤー会員に貸し出しています。ご希望の方はJHFウェブサイトの「JHFのご案内」をご覧のうえお申し込みください。

すでにデジタル無線機をお持ちの方は、無線機の登録手続きを済ませ利用料を納めているかご確認ください。

登録をしないまま無線機を使用しますと、不法無線局として処罰の対象になります（1年以下の懲役または100万円以下の罰金）。

お忘れのないようお願いします。